



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2012年1月受診者数：3583人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 2450人 (2148人)
2. 咳 : 1503人 (223人)
3. 鼻汁 : 1101人 (26人)
4. 嘔吐 : 822人 (459人)
5. 発疹 : 393人 (70人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 1044人
2. インフルエンザ : 846人
3. 感染性胃腸炎 : 709人
4. 気管支炎・肺炎 : 231人
5. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 127人



今月のワンポイント！

冬休みが終わり、いよいよ学校が始まりました。先週は地域によっては豪雪による災害もおきました。この寒さのせいか、1月末から2月はじめにかけて、今シーズンでは最もインフルエンザにかかれた患者さんが多かったようです。小中学校での学級閉鎖や欠席者数も1月末から2月はじめにかけて急増しています。HAT こども急病センターでも、先月の受診患者さんは3583名で、その中でも発熱で来られた方(2450名)の約3分の1の846名がインフルエンザにかかっているようです。今年のインフルエンザは昔からあるタイプの香港A型が最も多いようで(HAT こども急病センターでは全体の94%)、おなかいたなどの症状もきたすB型もわずか(6%)みられるようですが、これから春にかけてB型が増えてくる可能性があります。一度A型にかかっても再度B型にかかる可能性がありますので注意しましょう。インフルエンザにはワクチンや抗ウイルス剤が有効とされていますが、ワクチンもお薬も症状やウイルスを完全に消すものではありません。やはりこの時期は人混みを避け、やむを得ない場合にはマスク、うがいなどを家族全体で徹底して、人から人への感染をできるだけ予防しましょう。インフルエンザでは脳症が合併症の中で一番心配ですが、お子さんの症状を良く観察して、呼吸がおかしい、意識がもうろうとしている、などの症状があれば早めに病院を受診するようにしましょう。

